

# スーパーマーケット景気動向調査

2024年3月調査結果（2月実績）  
（2024年3月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

## 【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

---

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

## 【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

---

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会  
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会  
オール日本スーパーマーケット協会

### 3月調査（2月実績）結果概況

#### 景気判断DI 現状判断は50台を回復

2月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から+2.1の51.0となり、再び好不調判断の分かれ目である50を上回った。見通し判断は前月から+0.7の47.9と小幅に改善した。

経営動向調査では、うるう年の恩恵もあり、売上高DI、収益DI共に前月より大幅に上昇した。生鮮品仕入原価DIと食品仕入原価DIは前月と同様の高水準を維持した。客単価DIは前月水準を維持し、来客数DIは前月より上昇し、2020年3月以来のプラス圏となった。

カテゴリー動向調査では、うるう年で営業日数が1日多い恩恵を受けて、すべてのカテゴリーDIがプラスとなった。生鮮相場の落ち着きにより、青果や水産では販売数量が堅調に推移した。節約志向による内食需要の高止まりも背景に、日配や一般食品カテゴリーにおいても堅調な動向となった。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査では、景気判断現状判断DIが小幅に改善し、他のDIは前月に引き続き高水準を維持している。（長期傾向はP11参照）

2月はうるう年の恩恵、内食需要の高止まりも追い風に好調な販売動向となった。記録的な暖冬で降雪量もかなり少ない一方で急に冷え込む日もあり、品揃えやメニュー提案に苦心したとの声も多く寄せられた。生鮮相場を中心に価格が安定し、販売数量に増加傾向がみられた。節分は土曜日となり、恵方巻の販売は概ね好調に推移するも、立地や規模により実績差がみられた。一品単価の上昇と販売数量減の流れに反転の兆しも見られ始めており、各社では販売数量回復に向けた来客数確保の動きが激しくなると予想される。

#### 景況感調査

##### 現状判断

**景気判断DI**  
当月：51.0 (+2.1)  
前月：48.9

**消費者購買意欲DI**  
当月：49.0 (-0.2)  
前月：49.2

**周辺地域 競合状況DI**  
当月：46.4 (+1.0)  
前月：45.4

**店舗周辺地域 景気判断DI**  
当月：48.6 (-1.0)  
前月：49.6

##### 見通し判断

**景気判断DI**  
当月：47.9 (+0.7)  
前月：47.2

**消費者購買意欲DI**  
当月：47.4 (+0.6)  
前月：46.8

**周辺地域 競合状況DI**  
当月：44.9 (+1.1)  
前月：43.8

**店舗周辺地域 景気判断DI**  
当月：47.2 (-1.5)  
前月：48.7

#### 経営動向調査 経営状況

**売上高DI**  
当月：13.4 (+8.9)  
前月：4.5

**客単価DI**  
当月：12.6 (+1.7)  
前月：10.9

**来客数DI**  
当月：3.0 (+6.1)  
前月：-3.1

**収益DI**  
当月：13.1 (+6.5)  
前月：6.6

**販売価格DI**  
当月：19.0 (-1.0)  
前月：20.0

**生鮮品仕入原価DI**  
当月：16.4 (+0.5)  
前月：15.9

**食品仕入原価DI**  
当月：20.3 (+2.1)  
前月：18.2

#### カテゴリー動向

**青果DI**  
当月：12.9 (+4.2)  
前月：8.7

**水産DI**  
当月：12.1 (+7.1)  
前月：5.0

**畜産DI**  
当月：6.6 (+13.4)  
前月：-6.8

**惣菜DI**  
当月：16.0 (+2.5)  
前月：13.5

**日配DI**  
当月：14.5 (+6.6)  
前月：7.9

**一般食品DI**  
当月：13.0 (+5.5)  
前月：7.5

**非食品DI**  
当月：6.5 (+9.0)  
前月：-2.5

※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

# 結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

## 1. 売上高DI

前月から大きく上昇、プラス圏を二桁に拡大

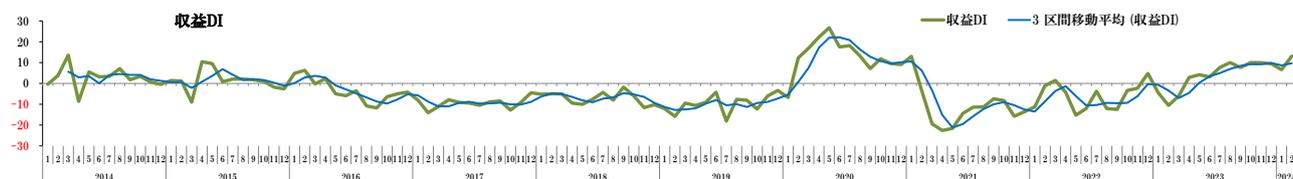
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	4.0	21.0	35.2	32.4	7.4	4.5
<b>売上高 (当月)</b>	<b>3.5</b>	<b>9.7</b>	<b>31.9</b>	<b>39.6</b>	<b>15.3</b>	<b>13.4</b>



## 2. 収益DI

前月から大きく上昇、プラス圏を二桁に拡大

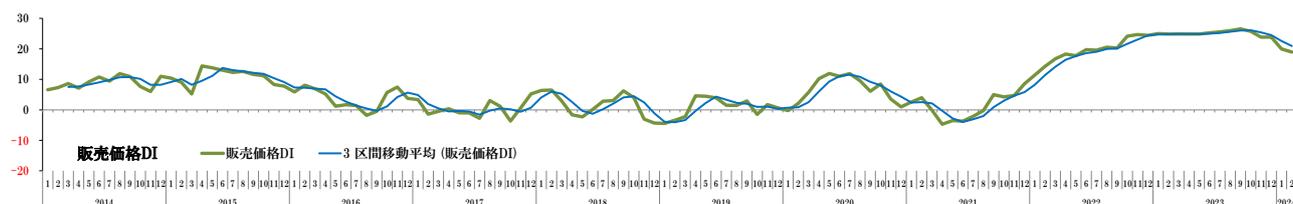
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	3.4	20.7	32.2	33.3	10.3	6.6
<b>収益 (当月)</b>	<b>2.1</b>	<b>11.3</b>	<b>33.3</b>	<b>38.3</b>	<b>14.9</b>	<b>13.1</b>



## 3. 販売価格DI

前月から横ばい推移、引き続き高水準で推移

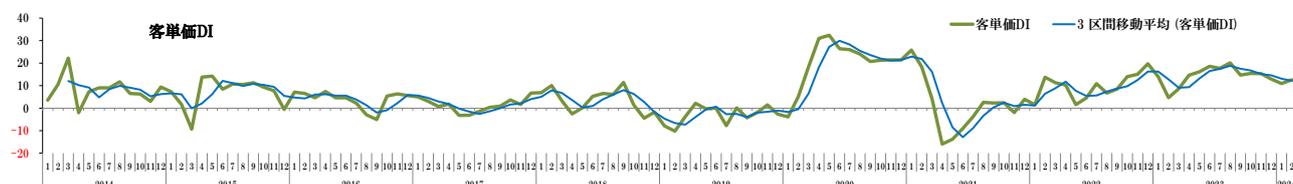
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.6	0.6	25.9	64.4	8.6	20.0
<b>販売価格 (当月)</b>	<b>0.0</b>	<b>1.4</b>	<b>25.5</b>	<b>68.8</b>	<b>4.3</b>	<b>19.0</b>



## 4. 客単価DI

前月から小幅に上昇、二桁プラス水準を維持

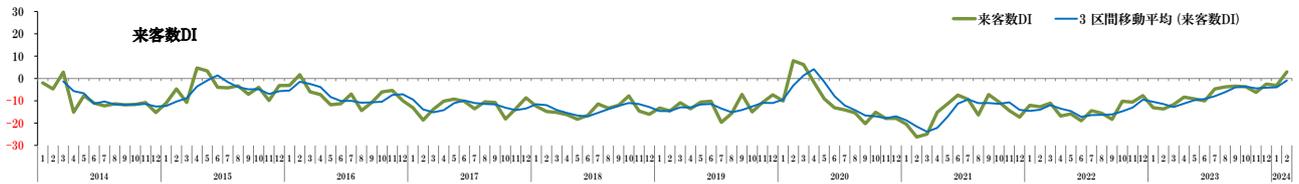
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.7	9.7	33.5	53.4	1.7	10.9
<b>客単価 (当月)</b>	<b>0.7</b>	<b>9.1</b>	<b>32.9</b>	<b>53.8</b>	<b>3.5</b>	<b>12.6</b>



## 5. 来客数 DI

前月から上昇し、2020年以来のプラス圏に浮上

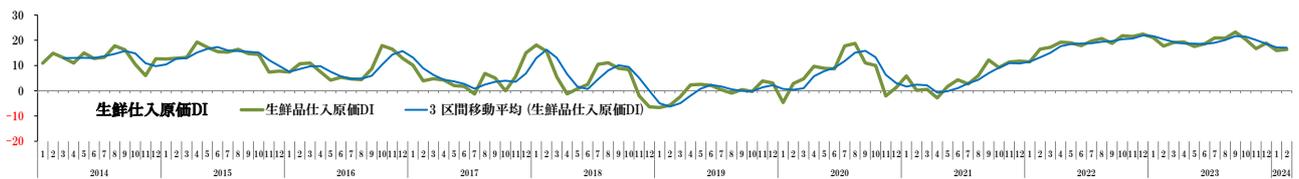
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	5.1	33.5	33.0	25.6	2.8	-3.1
<b>来客数 (当月)</b>	<b>3.5</b>	<b>27.3</b>	<b>30.1</b>	<b>32.2</b>	<b>7.0</b>	<b>3.0</b>



## 6. 生鮮仕入原価 DI

前月から横ばい推移、二桁プラス水準

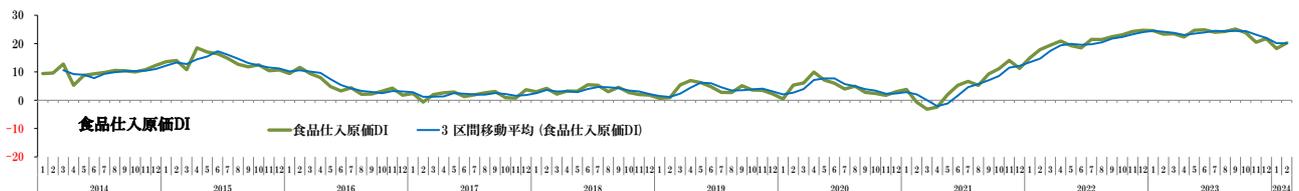
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.0	4.7	32.7	56.7	5.8	15.9
<b>生鮮仕入原価 (当月)</b>	<b>0.7</b>	<b>2.9</b>	<b>34.5</b>	<b>54.0</b>	<b>7.9</b>	<b>16.4</b>



## 7. 食品仕入原価 DI

前月から上昇、34か月連続プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.2	4.1	25.9	58.2	10.6	18.2
<b>食品仕入原価 (当月)</b>	<b>0.7</b>	<b>3.6</b>	<b>20.4</b>	<b>64.2</b>	<b>10.9</b>	<b>20.3</b>

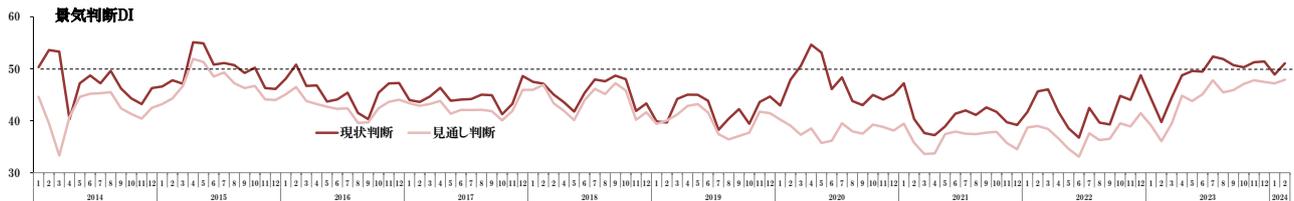


## II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

### 1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断 DI が小幅に改善、再び 50 を上回る

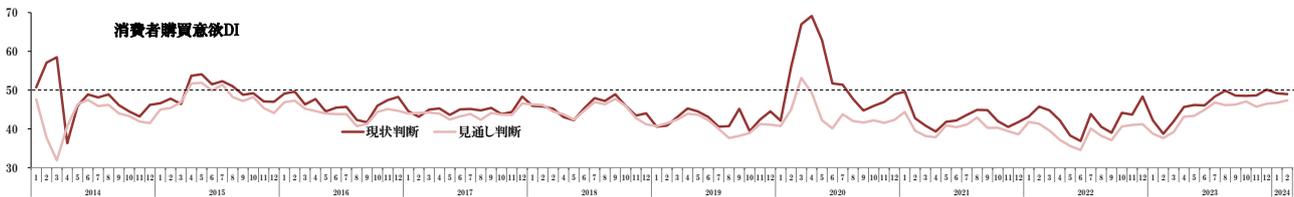
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	1.7	15.2	69.7	12.9	0.6	48.9
<b>【現状】景況判断 (当月)</b>	<b>0.7</b>	<b>9.1</b>	<b>75.5</b>	<b>14.7</b>	<b>0.0</b>	<b>51.0</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	1.7	19.8	67.2	10.7	0.6	47.2
<b>【見通し】景況判断 (当月)</b>	<b>0.7</b>	<b>18.2</b>	<b>69.9</b>	<b>11.2</b>	<b>0.0</b>	<b>47.9</b>



### 2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で推移

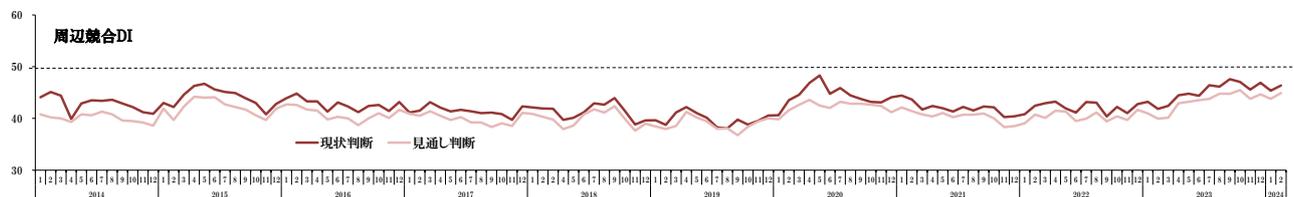
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.1	16.3	68.0	14.0	0.6	49.2
<b>【現状】購買意欲 (当月)</b>	<b>0.7</b>	<b>16.0</b>	<b>70.1</b>	<b>13.2</b>	<b>0.0</b>	<b>49.0</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.1	20.3	69.5	8.5	0.6	46.8
<b>【見通し】購買意欲 (当月)</b>	<b>0.7</b>	<b>18.9</b>	<b>70.6</b>	<b>9.8</b>	<b>0.0</b>	<b>47.4</b>



### 3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で推移

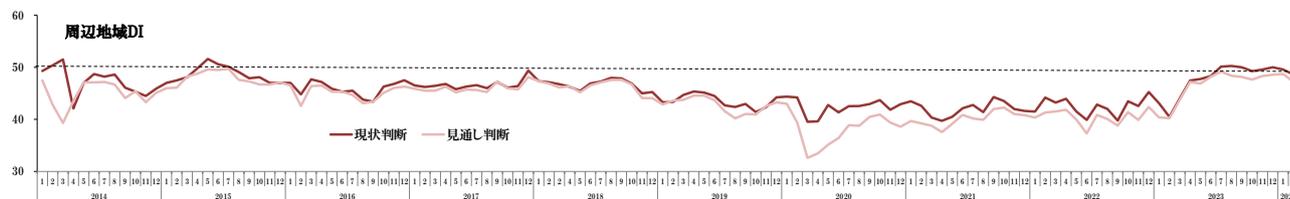
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	2.8	15.7	78.7	2.8	0.0	45.4
<b>【現状】競合状況 (当月)</b>	<b>1.4</b>	<b>14.6</b>	<b>81.9</b>	<b>1.4</b>	<b>0.7</b>	<b>46.4</b>
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.1	18.1	73.4	3.4	0.0	43.8
<b>【見通し】競合状況 (当月)</b>	<b>2.1</b>	<b>18.3</b>	<b>77.5</b>	<b>2.1</b>	<b>0.0</b>	<b>44.9</b>



#### 4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	1.1	7.3	84.2	6.8	0.6	49.6
【現状】地域景気(当月)	0.7	9.8	84.6	4.2	0.7	48.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	1.1	10.2	81.8	6.3	0.6	48.7
【見通し】地域景気(当月)	0.7	14.7	80.4	3.5	0.7	47.2

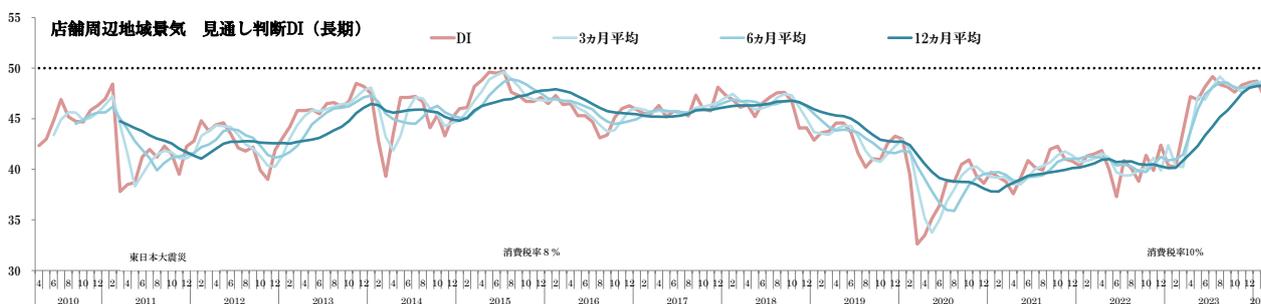
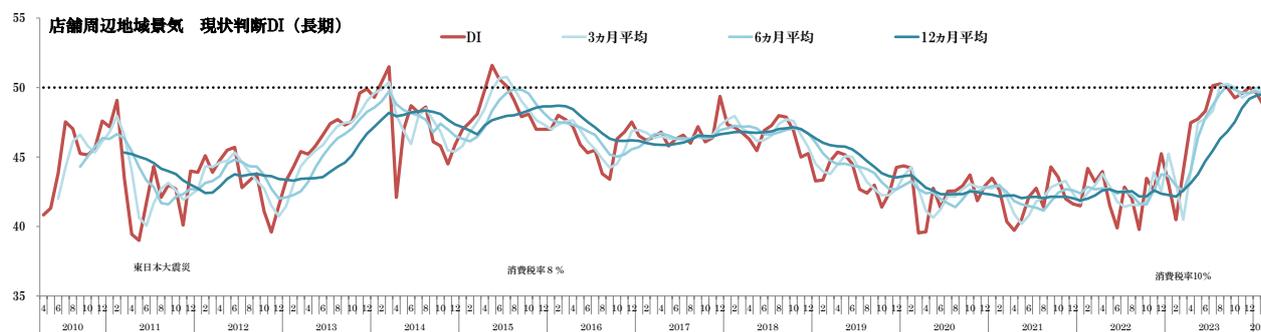


#### ・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

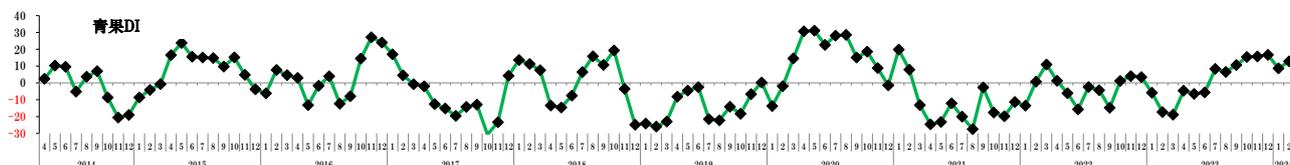
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した。感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破した。



### Ⅲ. カテゴリー別動向

#### 1. 青果DI：12.9（好調）

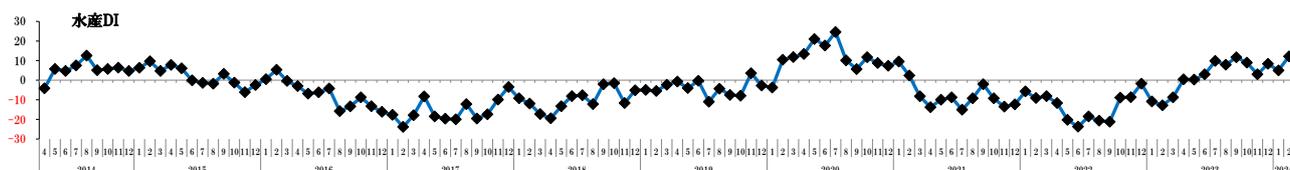
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	1.7	20.3	30.8	35.5	11.6	8.7
青果（当月）	0.7	17.4	27.5	38.4	15.9	12.9



玉ねぎなどの土物類は前年相場安との比較で大幅に単価増となり好調となった。暖冬の影響を受けた地域では白菜やネギ、キノコなどの鍋関連野菜が伸び悩んだ。前年不作により不調だった豆類は売上が回復した。サラダ関連は単価が落ち着き、好不調が分かれた。国産果実は全般的に相場高傾向が続くなか、みかんをはじめとする柑橘類が好調だが、イチゴは好不調の判断が分かれ、りんごは高値で不調とするコメントが多い。輸入果物では前月に引き続きバナナの動きがよかった。

#### 2. 水産DI：12.1（好調）

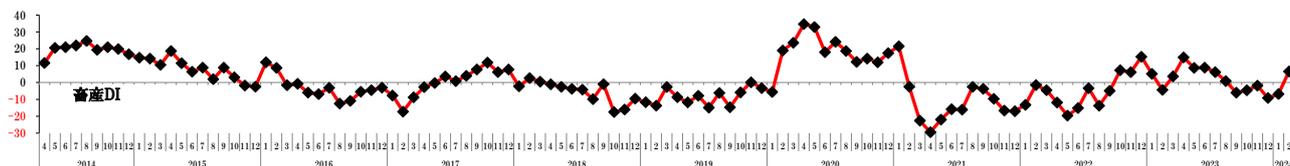
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	2.9	24.6	31.0	32.7	8.8	5.0
水産（当月）	1.4	18.1	27.5	36.2	16.7	12.1



入荷が安定、相場が落ち着き、販促しやすい環境とする回答が多く、気温が高めに推移したためマグロを中心とした刺身類が好調、ブリ、サーモンなどが販売しやすい価格で好調、かに類、塩干類も順調に推移した店舗が多い。暖冬の影響を受け、タラをはじめとする鍋関連商材、カキなどの貝類は伸び悩んだとのコメントが多い。曜日巡りのよかった恵方巻関連は好調に推移した。

#### 3. 畜産DI：6.6（やや好調）

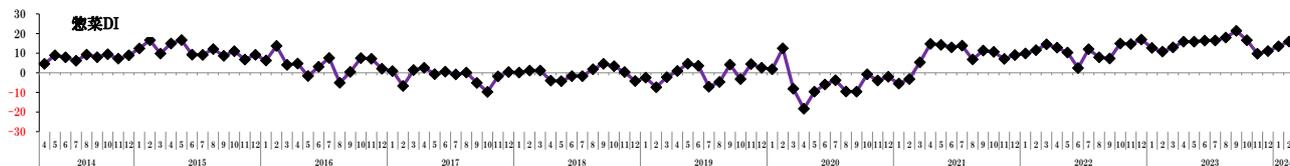
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	5.9	40.8	30.2	20.7	2.4	-6.8
畜産（当月）	2.2	21.2	32.8	35.8	8.0	6.6



価格が安定している豚肉や鶏肉への需要シフトが継続しているものの、全体的に前年に比べ相場に落ち着きがみられはじめ、うるう年の恩恵もあり販売は好調となった。豚肉は国産相場が安定し、小間切れやひき肉など普段使いの商材を中心に売上が回復。前年鳥インフルエンザからの反動もあり、鶏肉も引き続き好調に推移した。気温が高めに推移した地域を中心に、鍋関連の需要は前年との気温差で好不調がわかれた。牛肉は回復傾向がみられた店舗もあったが、全般的に伸び悩んだ。加工肉は、引き続き動きが鈍い。

#### 4. 惣菜DI：16.0（好調）

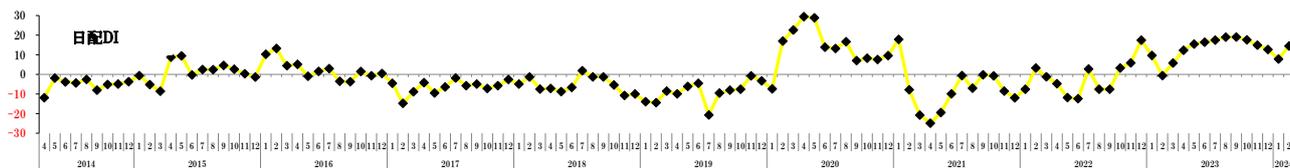
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	2.4	13.1	26.8	43.5	14.3	13.5
<b>惣菜（当月）</b>	<b>2.9</b>	<b>10.3</b>	<b>25.7</b>	<b>41.9</b>	<b>19.1</b>	<b>16.0</b>



節分が土曜日となり、恵方巻関連は予約販売を含め概ね好調に推移した。天ぷら、コロッケなどの揚げ物類は引き続き好調。単価アップの米飯類、おかず類の動きもよかった。インスタアベーカーやサンドイッチなど、パン類の動きも良い。サラダ関連は、青果相場の落ち着きの影響を受け伸び悩んだ。新メニューやイベントの開催により、成果をあげたというコメントが多かった。3連休が2回あり、行楽需要が伸びた店舗も。

#### 5. 日配DI：14.5（好調）

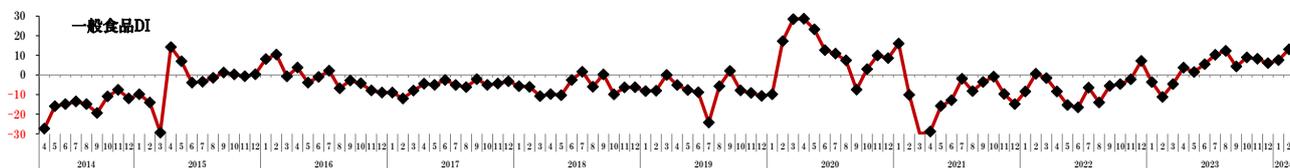
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	0.6	19.3	37.4	33.3	9.4	7.9
<b>日配（当月）</b>	<b>0.7</b>	<b>10.1</b>	<b>33.3</b>	<b>42.0</b>	<b>13.8</b>	<b>14.5</b>



値上げの影響により単価上昇が続く一方で、買上点数の減少は抑えられ、好調な動向が続いている。価格再改定のあったパン類、牛乳など乳製品も堅調に推移した。乳酸菌飲料やヨーグルト類の動きがよい。鶏卵は、やや相場の高い状況が継続し好調。冷凍食品、納豆や豆腐など、食生活に欠かせないベーシックな商品群は引き続き堅調に推移した。暖冬で、鍋関連の水物や練物など和日配は伸び悩んだ地域が多かった。

#### 6. 一般食品：13.0（好調）

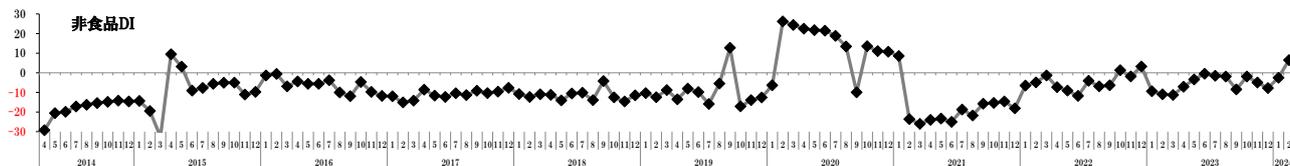
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	2.4	19.5	33.7	34.3	10.1	7.5
<b>一般食品（当月）</b>	<b>1.4</b>	<b>13.0</b>	<b>31.2</b>	<b>40.6</b>	<b>13.8</b>	<b>13.0</b>



全般的に販売価格上昇による単価増、うるう年により好調とのコメントが多い。気温が高めに推移した地域が多く、飲料、果汁飲料が好調に推移した。調味料や菓子類などは堅調に推移、比較的値ごろな米類は節約志向も受けて好調。食用油は値上げの影響が一巡し回復傾向がみられた。千葉での群発地震により、水、レトルト、缶詰など備蓄品の需要が高まった店舗もみられた。暖冬の影響で、鍋つゆやスープ、シチュー、コーヒーなどのホットメニューは地域により好不調が分かれた。バレンタイン商戦は年々縮小傾向。

## 7. 非食品DI：6.5（やや好調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	9.2	25.8	37.4	20.9	6.7	-2.5
非食品（当月）	3.7	19.4	36.6	27.6	12.7	6.5



単価が上昇したトイレトペーパー・キッチンペーパーなど紙製品が引き続き好調に推移した。ペットフード、ラップやホイルなども単価上昇により好調とのコメントが多い。一方で、マスクやハンドソープ、除菌関連など衛生用品は需要低下傾向が続くなか、花粉対策でマスクには回復傾向がみられた。家庭用洗剤は値上げで単価が上昇した一方、ドラッグストアなど競合店との価格競争の厳しさを指摘するコメントがみられた。

### カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20      好調：20～10      やや好調：10～0  
 やや不調：0～-10      不調：-10～-20      かなり不調：-20～

### 2024年3月調査（2月実績）キーワードTOP3

1. うるう年により営業日が多い
2. 生鮮相場価格に落ち着き
3. 内食需要堅調

### （参考）2023年3月調査（2月実績）キーワードTOP3

1. 値上げ等による節約志向の高まり、販売数量減
2. 前年まん延防止等重点措置からの反動による内食需要減
3. 気温上昇による冬物商材の伸び悩み

### スーパーマーケット景気動向調査 集計数

2月実績速報版      144社  
 1月実績確報版      178社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 [tokei@super.or.jp](mailto:tokei@super.or.jp)